



2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年7月31日

上場会社名 株式会社マースグループホールディングス
 コード番号 6419 URL <http://www.mars-ghd.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松波 明宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 佐藤 敏昭

TEL 03-3352-8555

四半期報告書提出予定日 2019年8月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	5,304	12.9	835	22.1	1,043	18.0	703	254.8
2019年3月期第1四半期	6,089	15.2	1,072	182.6	1,272	140.9	198	38.1

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 809百万円 (621.4%) 2019年3月期第1四半期 112百万円 (63.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	42.11	
2019年3月期第1四半期	11.87	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	58,934	51,429	87.3	3,079.62
2019年3月期	59,220	51,204	86.5	3,066.15

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 51,429百万円 2019年3月期 51,204百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		45.00		35.00	80.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		45.00		35.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,000	1.7	1,900	14.3	2,000	17.9	1,300	50.3	77.84
通期	26,000	6.8	4,700	0.2	5,200	1.9	3,200	192.3	191.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	22,720,000 株	2019年3月期	22,720,000 株
期末自己株式数	2020年3月期1Q	6,020,024 株	2019年3月期	6,019,964 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	16,699,977 株	2019年3月期1Q	16,700,036 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、設備投資や輸出に弱さが見受けられるものの、企業収益は底堅く推移し、雇用・所得環境の改善が続くなど、緩やかな回復基調で推移しました。一方、世界経済においては貿易摩擦の長期化による影響や世界経済の減速が懸念され、不透明な状況が続きました。

このような状況の中、当社グループは持株会社体制へ移行し、各事業会社の役割や責任を明確に定め、意思決定の迅速化や機動的な事業運営を強力に推し進めてまいりました。また、変化する市場環境に柔軟に対応するため、アミューズメント関連事業を中核事業として自動認識システム関連事業、ホテル関連事業と事業の多角化を推し進めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高53億4百万円（前年同四半期比12.9%減）、営業利益8億35百万円（同22.1%減）、経常利益10億43百万円（同18.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益7億3百万円（同254.8%増）となりました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

[アミューズメント関連事業]

アミューズメント関連事業の主な販売先であるパチンコ業界は、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則」や「ギャンブル等依存症対策基本法」の影響により、多くのパチンコホールは新規出店や改装を控える傾向が強く、ホール経営を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続きました。

このような状況の中、当社グループは、少人数でホール運営が可能なパーソナルPCシステムを中心にトータルシステムでの提案・販売を行ってまいりました。特に新式パーソナルPCシステム「マースユニコン」は、新店や大型店を中心に導入されました。パチンコホールの多くは、人手不足や人件費の高騰を運営上の大きな課題に掲げており、それらの課題を解決するパーソナルPCシステムは潜在需要があるものの、買い控えが続く市況の中においては販売が限定的となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるパーソナルの売上実績は12店舗、当第1四半期連結累計期間末時点における導入（実稼働）店舗数は累計1,639店舗（市場シェア20.2%）となりました。また、パーソナルを含めたプリペイドカードシステムの売上実績は13店舗、導入（実稼働）店舗数は累計1,879店舗（市場シェア23.2%）となりました。

空気の流れで紙幣を搬送する業界随一のAir紙幣搬送システムは、順調に導入件数を伸ばし、累計920店舗を超えました。特にハイスベックモデルの立体Air紙幣搬送システムは、技術力の高さやホール業務の改善効果等が市場で高く評価され、大型案件や他社ユーザーの獲得につながりました。

この結果、アミューズメント関連事業の売上高は、34億63百万円（前年同四半期比18.8%減）、セグメント利益は8億24百万円（同22.6%減）となりました。

[自動認識システム関連事業]

自動認識システム関連事業における市場は、世界ではスマートフォン向け小型電子部品や電気自動車向けリチウム電池の需要が拡大し、国内においては製造業や物流業を中心に自動化・省力化のニーズが高まっていることから回復基調で推移しました。

自動認識システムは、RFID、バーコード、X線検査装置等を媒体として各種データを精査しながら自動的に取り込み・認識ができるため、様々なビジネスシーンでの活用が期待されております。当社グループではFA市場、流通市場、アミューズメント市場、健診市場等、広く新規市場への展開を目指し、提案販売活動を積極的に行ってまいりました。特にFA市場においては、競合他社との差別を図り、世界最高水準の高分解能（性能）を誇るX線源を搭載した産業用X線検査装置の販売を推し進めてまいりました。

この結果、自動認識システム関連事業の売上高は、13億7百万円（前年同四半期比4.1%減）、セグメント利益は1億14百万円（同16.6%増）となりました。

[ホテル関連事業]

ホテル業界におきましては、2018年の訪日外国人数が3,119万人と最高記録を更新しており、観光需要は好調に推移しました。

博多地区でトップクラスの稼働率を誇るホテルサンルート博多は、2019年4月1日から自社ブランド「マースガーデンホテル博多」として新たにスタートしました。静岡県御殿場市のマースガーデンウッド御殿場は、宿泊者向けのイベントを定期的に開催し、新規顧客やリピーターの獲得に努めました。

関連事業のレストランでは、「海鮮処 松月亭博多本店(マースガーデンホテル博多)」及び「鉄板焼 銀明翠GINZA(東京銀座)」が、インバウンドの影響や認知度が高まるに連れて利用客が増加しました。また、前期に開店した「寿司 銀明翠博多(ホテル日航福岡内)」、「鉄板焼 銀明翠GINZA(新フロア)」、「海鮮処 松月亭博多中洲店」は順調な滑り出しとなりました。

この結果、ホテル関連事業の売上高は5億33百万円(前年同四半期比15.4%増)、セグメント損失は35百万円(前年同四半期は24百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

当第1四半期連結会計期間末の総資産は589億34百万円となり、前連結会計年度末と比較して2億85百万円減少いたしました。

流動資産は361億73百万円となり、前連結会計年度末と比較して4億16百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、受取手形及び売掛金が10億8百万円減少し45億69百万円となりました。

固定資産は227億61百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億30百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、投資有価証券が2億40百万円増加し88億66百万円となりました。

流動負債は49億15百万円となり、前連結会計年度末と比較して5億59百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、未払法人税等が7億23百万円減少し1億25百万円となりました。

固定負債は25億90百万円となり、前連結会計年度末と比較して49百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、リース債務が36百万円増加し6億44百万円となりました。

純資産は514億29百万円となり、前連結会計年度末と比較して2億24百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、利益剰余金が1億18百万円増加し481億63百万円となりました。

自己資本比率は87.3%となり、前連結会計年度末と比較して0.8ポイント増加いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は232億93百万円となり、前連結会計年度末と比較して92百万円増加いたしました。

当第1四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は8億93百万円の収入(前年同四半期は18億67百万円の収入)となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益10億43百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は2億42百万円の支出(前年同四半期は79百万円の支出)となりました。主な要因は、投資有価証券の取得による支出1億12百万円、有形固定資産の取得による支出86百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は5億55百万円の支出(前年同四半期は5億60百万円の支出)となりました。主な要因は、配当金の支払額5億54百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年5月20日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,200,404	23,293,167
受取手形及び売掛金	5,577,347	4,569,196
リース債権及びリース投資資産	658,664	678,990
有価証券	349,895	349,895
商品及び製品	2,136,842	2,244,165
仕掛品	253,681	298,267
原材料及び貯蔵品	1,071,419	1,150,677
その他	3,341,899	3,589,447
貸倒引当金	△224	△207
流動資産合計	36,589,930	36,173,600
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,082,593	5,024,426
土地	5,434,930	5,434,930
その他(純額)	522,948	577,754
有形固定資産合計	11,040,473	11,037,111
無形固定資産	134,139	174,857
投資その他の資産		
投資有価証券	8,625,625	8,866,560
その他	2,933,868	2,785,821
貸倒引当金	△103,746	△103,098
投資その他の資産合計	11,455,747	11,549,283
固定資産合計	22,630,359	22,761,252
資産合計	59,220,290	58,934,853
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,418,092	2,345,455
リース債務	525,540	487,332
未払法人税等	849,060	125,777
賞与引当金	428,460	224,421
その他	1,253,563	1,732,255
流動負債合計	5,474,718	4,915,241
固定負債		
リース債務	607,932	644,803
役員退職慰労引当金	215,060	221,315
退職給付に係る負債	594,752	600,040
資産除去債務	44,807	52,724
その他	1,078,170	1,071,170
固定負債合計	2,540,721	2,590,053
負債合計	8,015,439	7,505,295

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	8,371,830	8,371,830
利益剰余金	48,044,487	48,163,260
自己株式	△12,315,252	△12,315,383
株主資本合計	52,035,164	52,153,807
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△576,756	△478,121
退職給付に係る調整累計額	△253,557	△246,128
その他の包括利益累計額合計	△830,313	△724,249
純資産合計	51,204,851	51,429,557
負債純資産合計	59,220,290	58,934,853

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	6,089,156	5,304,610
売上原価	2,985,675	2,436,466
売上総利益	3,103,481	2,868,143
販売費及び一般管理費	2,030,753	2,032,847
営業利益	1,072,728	835,295
営業外収益		
受取配当金	184,424	203,206
その他	15,273	14,751
営業外収益合計	199,697	217,957
営業外費用		
為替差損	—	9,601
営業外費用合計	—	9,601
経常利益	1,272,426	1,043,652
特別損失		
役員退職慰労金	973,300	—
特別損失合計	973,300	—
税金等調整前四半期純利益	299,126	1,043,652
法人税、住民税及び事業税	280,886	195,914
法人税等調整額	△179,998	144,462
法人税等合計	100,888	340,377
四半期純利益	198,238	703,274
親会社株主に帰属する四半期純利益	198,238	703,274

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	198,238	703,274
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△93,389	98,635
退職給付に係る調整額	7,344	7,428
その他の包括利益合計	△86,045	106,063
四半期包括利益	112,192	809,338
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	112,192	809,338

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	299,126	1,043,652
減価償却費	137,058	112,069
引当金の増減額(△は減少)	764,733	△198,450
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	5,778	5,287
受取利息及び受取配当金	△184,427	△205,407
売上債権の増減額(△は増加)	510,118	1,008,151
リース債権及びリース投資資産の増減額(△は増加)	137,769	△15,264
たな卸資産の増減額(△は増加)	168,955	△231,166
営業貸付金の増減額(△は増加)	234,176	179,635
仕入債務の増減額(△は減少)	247,686	△72,637
リース債務の増減額(△は減少)	△143,351	△1,336
その他	582,558	251,399
小計	2,760,183	1,875,932
利息及び配当金の受取額	184,427	204,657
法人税等の支払額	△1,077,255	△1,187,009
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,867,354	893,580
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,567	△86,996
投資有価証券の取得による支出	△7,348	△112,001
その他	△68,660	△43,051
投資活動によるキャッシュ・フロー	△79,576	△242,048
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	—	△130
配当金の支払額	△560,446	△554,910
財務活動によるキャッシュ・フロー	△560,446	△555,041
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,219	△3,726
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,230,551	92,763
現金及び現金同等物の期首残高	23,933,711	23,200,404
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,164,263	23,293,167

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(2018年4月1日 至2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	4,263,269	1,363,101	462,786	6,089,156	—	6,089,156
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	140,012	59,351	2,755	202,119	△202,119	—
計	4,403,282	1,422,452	465,542	6,291,276	△202,119	6,089,156
セグメント 利益又は損失 (△)	1,065,664	98,497	△24,439	1,139,722	△66,994	1,072,728

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△66,994千円には、セグメント間取引消去1,781千円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用等△68,775千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	3,463,076	1,307,606	533,927	5,304,610	—	5,304,610
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	132,793	36,994	1,810	171,598	△171,598	—
計	3,595,869	1,344,601	535,738	5,476,208	△171,598	5,304,610
セグメント 利益又は損失 (△)	824,555	114,837	△35,467	903,925	△68,629	835,295

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△68,629千円には、セグメント間取引消去975千円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用等△69,604千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。